# 令和２年度　　校内研修まとめ

## 自らの力を伸ばそうとする児童の育成
### ~学習を「焦点化」「視覚化」「共有化」する工夫と、学習環境づくりを通して~

県教委指定「総合的に学力向上を図る学校への支援事業」
（Ｒ１～Ｒ２年度　２ヵ年指定）

# Ｅ小学校

令和２年度　校内研修テーマ

# 自らの力を伸ばそうとする児童の育成

**～学習を「焦点化」「視覚化」「共有化」する工夫と、学習環境づくりを通して～**

県教委指定「総合的に学力向上を図る学校への支援事業」（Ｒ１～Ｒ２年度　２ヵ年指定）

## 1　校内研修テーマの根拠と設定

**（１）Ｒ１年度当初の学校の現状**

・授業中だけで学習内容を理解・習得することが難しく、学習内容を定着させるための支援が必要な児童が多い。
・児童の、学習と学習をつなげる見方が弱く、既習事項を活用する力のある児童が少ない。
・児童が、自分の得意なことや不得意なことの理解が十分でなく、「より分かりたい・よりよくなりたい」という意欲のない児童が多い。
・職員が、児童のもつ特性を理解し、その児童に合った指導を考えていく必要がある。
・学習に必要なものが揃えられていなかったり、学習のきまりが守られていなかったりするなど、学習の基盤ができていない。
・家庭学習の取組に個人差があり、学習内容の定着につながっていない。
・保護者の家庭学習に対する意識に差がある。
・家庭での望ましい生活リズムが身に付いていない児童が多く、学習にも影響している。

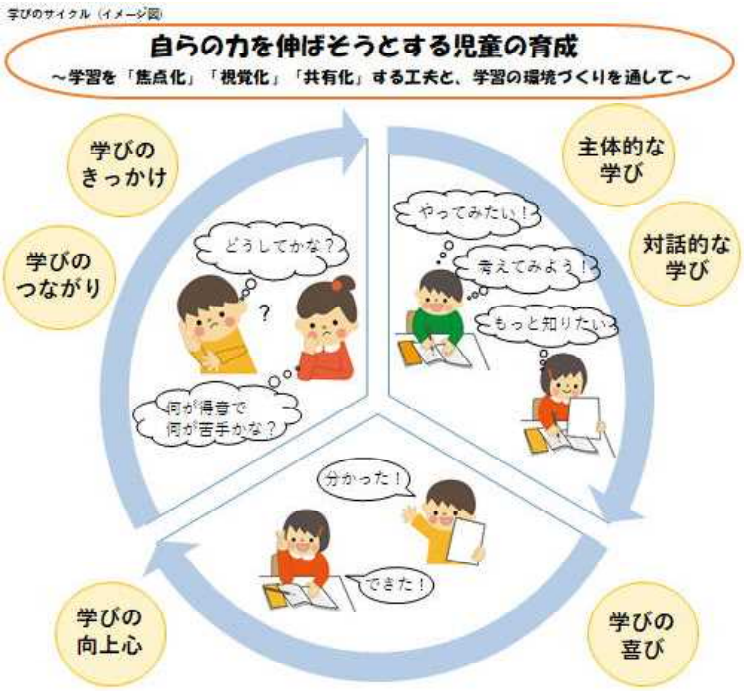
**（２）Ｒ１年度研修の成果（○）と課題（●）**

○授業に「焦点化」「視覚化」「共有化」の手立てを意識して入れるようになり、個に応じた指導につながった。
○学習基盤に関することをイラスト化して掲示し、児童の意識の涵養を図ることができた。
○学習の定着のために家庭学習・自主学習の取り組ませ方の検討や、児童への個別の支援、補充の時間の指導を行った。
○「焦点化」として授業者が単位時間あたりのめあてを明確に示すようになり、児童も授業のゴールに向けて目的意識をもって学習に取り組む姿が見られるようになった。
○「視覚化」として既習事項の提示の仕方を工夫することにより、児童が既習事項との関連に気付き、活用することにつながった。また、本時のめあてに向かう「焦点化」にもなった。
○「共有化」として話し合う場面での活動のさせ方や教具などを工夫したことが、児童の対話的な活動につながった。
○「焦点化」「視覚化」「共有化」の実践例をまとめ、共有することができた。
○「視覚化」として板書を工夫することが、児童へのノート指導にもつながった。
○廊下歩行や姿勢を保つことをイラスト化したことで、規律を守ることを意識しながら行動する児童が増えたり、教師も肯定的表現で指導できたりするなど、視覚的支援が有効であった。
○毎月１週間の「家庭学習集中期間」を設定し、自分で学習の内容や量を考えて学習に取り組ませたことで、家庭学習や自主学習の必要性を感じられた児童がいる。
※課題（●）は、各班のＲ２年度のまとめに記載。Ｒ１年度の課題の解決を目指して各班がＲ２年度の研修を進める。

## R2年度の校内研修テーマ
# 自らの力を伸ばそうとする児童の育成
**～学習を「焦点化」「視覚化」「共有化」する工夫と、学習環境づくりを通して～**

Ｒ１年度は『自らの力を伸ばそうとする児童を育てる指導の充実』というテーマだったが、ゴールとなる目指す児童像を明確にして研修を進められるよう、Ｒ２年度はテーマを『自らの力を伸ばそうとする児童の育成』と改め、各班での活動や授業研究を進めた。

### （３）校内研修のイメージ図と研修班の編制




［学びのサイクル（イメージ図）］

［児童にもたせたい意識］

**☆自己理解**

「自分は何が得意かな」
「何が苦手かな」
「自分は何に対する興味が高いかな」
「自分のよさって何かな」

**☆自己肯定感**

「自分もできるんだ」
「やってみたらおもしろかった」
「自分のよさや考えを生かせた」

**☆向上心**

「もっとできるかもしれない」
「もっとできるようになりたい」
「新しいことにチャレンジしたい」

| 個に応じた指導班 |
|---|
| ○Ｅ小の「焦点化・視覚化・共有化」とは<br>○授業における「焦点化・視覚化・共有化」の手立て<br>○「学びの流れ」の共通理解 |

| 学習の基盤班 | 学習の定着班 |
|---|---|
| ○「学級経営」の充実<br>○児童の認知機能の強化<br>○「Ｅ小のやくそく」の児童への定着<br>○「学習のきまり」の児童への定着 | ○家庭学習集中期間の設定<br>○家庭学習集中期間カードの活用<br>○家庭学習コーナーの設置<br>○補充の時間の取組 |

| 道徳教育・キャリア教育 | 体力向上 |
|---|---|

## 2　校内研修各班の取組の概要

※別紙参照

## 3　校内研修各班の取組以外の研修の取組

（１）『指導チェックリスト　～Ｒ２Ｅ小バージョン～』の作成

各研修班に対応して

〇授業（個に応じた指導）編

〇学習の基盤編

〇学習の定着編

それぞれのチェック項目を設定し、校内研修の際にチェックに取り組むことで、校内研修の取組を日頃から意識して指導にあたり、研修の実現化や職員の資質向上につながるようにした。

指導チェックリスト　～Ｒ２　Ｅ小バージョン～

| 授業（個に応じた指導）編 | | |
|---|---|---|
| 1 | 単元や題材などのまとまりをどのように構成するかというデザイン（単元構想）を考えている。 | |
| 2 | 単元（教材）の中の本時の位置付けを意識して授業を構想している。 | |
| 3 | 導入では、児童の関心・意欲を喚起するような問題提示の工夫をしている。 ㊥㊦ | |
| 4 | 児童の主体的な学びにつながるよう、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の本時の『めあて』を児童とともに設定している。 ㊥㊤ | |
| 5 | 『めあて』を板書等で可視化している。 ㊥㊦ | |
| 6 | 個別追究や作業のやり方を簡潔・明瞭に伝えている。 ㊥ | |
| 7 | 短時間での個別追究の中で、児童の追究の様子を見取っている。<br>（目的をもって机間指導し、一人一人の学習状況を把握している。） | |
| 8 | １時間の学習の流れを意識し、どの児童にも見やすく理解しやすい板書を工夫している。（構造的な板書、文字の大きさや色分け、短冊等の使用など） ㊦ | |
| 9 | 既習事項や経験が課題追究の手助けとなるよう、声かけや掲示物などを工夫をしている。 | |
| 10 | 画像や映像など、効果的に提示している。（ＩＣＴの活用の含む） ㊦ | |
| 11 | 学習内容やねらいに応じて学習形態を工夫している。 | |
| 12 | 多様な考え方に触れ、自分の学びを広げたり深めたりできるよう、対話的な学びの場面を意図的・効果的に設定している。 ㊤<br>〈対話的な学びのよさ　～はばプラⅡより～〉<br>「一人では気付けなかったことに着目することができる。」<br>「同じような意見を聞き、自分の考えに自信がもてる。」<br>「相手に説明することで、自分の考えをより明確化できる。」 | |
| 13 | 全体共有の場では、特定の児童が活躍するのではなく、全体の理解を促すよう、次のことを行っている。 ㊤<br>（例）・聞く視点を与え、考えながら聞かせる。<br>・発言を区切り、他の児童へつなげる。<br>・他者に考えを説明させる。<br>・問い返しを行い、深い理解を促す。 | |
| 14 | 本時のねらいに迫れるよう、視点を与え、児童の言葉を使って『まとめ』をしている。 ㊥㊤ | |
| 15 | 児童が自分の学びを自覚できるよう、「何を学んだか」「どのように学んだか」の『振り返り』をする場面を設定している。 ㊥ | |
| 16 | 学習したことと日常生活を関連付けるように工夫している。 | |
| 17 | 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫をしている。<br>※はばプラⅡ参照 ㊥㊦㊤ | |
| 18 | ノートやワークシートにより、児童生徒の一人一人の理解の状況を把握している。 | |
| 19 | 教師自身の授業評価を行い、次時の指導に役立てている。 | |

| 学習の基盤編 | | |
|---|---|---|
| 1 | 教室全体の整理整頓を心がけ、児童が落ち着いて生活できる教室環境が整っている。 | |
| 2 | 児童が学習に集中しやすいように、黒板周りが整理整頓されている。 | |
| 3 | 個の特性や課題を理解し、個々の困り感や困難さに寄り添った支援を行っている。 | |
| 4 | 学習の基盤班が提案する『毎月の心がけ』を意識した声かけを児童に行っている。 | |
| 5 | 児童が互いを認め合い支え合える温かな学級集団づくりに努めている。 | |
| 6 | 話し方や聞き方など、学習のルールや学び方を指導している。 | |
| 7 | 学習に必要な物をそろえる指導をしている。また、家庭環境に応じてサポートしている。 | |
| 8 | Ｅ小のやくそく を守る意識を高める指導や声かけを全児童に行っている。 | |
| | | |
| | | |

| 学習の定着編 | | |
|---|---|---|
| 1 | 「家庭学習集中期間」前に児童各自が計画を立てる際、個に応じた助言・支援を行っている。 | |
| 2 | 「家庭学習集中期間」の各児童の取組に対して、称賛やアドバイスを行い、学習への意欲の喚起や取組の向上につながるように努めている。 | |
| 3 | 「家庭学習集中期間」の取組に対して、児童が相互によさを認め合う取組を行っている。 | |
| 4 | 「家庭学習コーナー」の効果的な活用に向けて、児童の意識が向くように声かけなどを行っている。 | |
| 5 | 学級だより（週予定表）や学力向上だよりなど様々なたよりを活用して、児童の家庭学習に対する意識を高めたり、家庭への啓発を行ったりしている。 | |
| 6 | （1～3年）児童の実態に応じて内容や取組方を工夫し、補充の時間を効果的に使っている。<br>（4～6年）担任や教科担当者と相談・連携し、補充の時間を効果的に使っている。 | |
| 7 | 宿題は、目的をもった質と量になるよう心がけている。 | |
| 8 | 宿題の取組について、個に応じた支援や声かけを行っている。 | |
| | | |
| | | |

| 番外編：自らの資質向上編 |
|---|
| ☆提案授業や授業研究会の内容を自分の実践に生かそうとしている。 |
| ☆周囲の教職員のよさに気付くアンテナを高くし、自分の実践に生かそうとしている。 |
| |

（２）『Ｅ小えがおの木』の掲示

児童の自己肯定感を高めたり、主体的に行動しようとする意欲を高めたりするために、校内に『えがおの木』を設け、職員が見付けた児童のよさや頑張っている姿を書き記し、児童の目に触れるようにした。

（３）先生方の掲示板

時期に応じたテーマを設け職員の考えを掲示することで、児童が「先生方はこんなことを考えているのか」「自分だったら・・・」と、自分と向き合うきっかけとなるようにした。

［わたしの得意なこと］

［今年の目標］

## 4　令和２年度の校内研修を振り返って（職員の声）

※研修各班の取組における成果と課題は、各班のＲ２年度のまとめに記載。

**（１）「焦点化」「視覚化」「共有化」を意識した授業を行ってきたことで、児童にどんな変化があったか。また、自身の指導にどんな変化があったか。**

〈児童〉・何をすればよいか、どこが大切なのかを考えながら学習する児童が増えた気がする。

・交流の場面では「共有化」の手立てを工夫したことで、友達の考えや意見を聞くだけでなく、自分の考えと比較して多面的に考えられるようになった。

・活動の手順を「視覚化」して示すことで、活動に集中して取り組むようになった。

・「授業がわかりやすい」という声が多くなった。課題に対して、考える視点がはっきりしていて、取り組みやすかったのだと思う。

・「焦点化」「視覚化」により、やること・目的が明確になり、集中して取り組めていたと思う。

〈自分〉・どんなことを身に付けさせたいかが明確になったと思う。

・より一層、児童の立場になって授業を考えるようになった。

・「焦点化」をすることで、本時のゴールを目指した問いや支援をすることができ、その時間内で評価や見取りをする余裕をもつことにもつながった。

・授業を構成する上で、この３点がないと児童に理解させられないので、３つを決めているのだと思う。しかし正直、この３点の言葉にまだ勉強不足を感じる。

・コロナ禍ということもあったが、課題を絞り評価を意識することで、活動を精選することができた。そのため、児童も１つのことに集中して取り組めていたと思う。

**（２）hyper-QU、認知機能強化、職員室へのキーワードの掲示などを通して、児童への支援や学級経営において、自身の指導や意識にどんな変化があったか。**

・児童に対する言葉がけが､以前より児童に寄り添った言葉を選べるようになったと思う。
・感覚的なものではなく、hyper-QU の客観的な結果に基づいて手立てを考え、実践してみようという気になった。
・声には出さないが困り感を抱えているであろう児童に留意したり、適宜声かけや支援をする頻度が増えたりした。
・hyper-QU で、子どもが内側に秘めているものを理解したことで、個別指導や全体指導をする際の声かけの内容を考えることに役立った。
・職員室へのキーワードの掲示を通して､意識して児童と関わろうという気持ちがもてた。
・環境作りや教師の指導、学級経営に、特別支援的対応が必要であり、有効であると実感した研修であった。「コグトレ」は、高学年でも楽しんで取り組んでいた。今後も、計画的に取り組んでいけるとよいと思う。（年度当初にまとめて印刷してＢＯＸ等に入れ、いつでも活用できるなど、活用の工夫が班としてできるとよかった。）
・全体への支援と個別での支援を明確に分けることができた気がする。

**（３）家庭学習への支援を行ったり、補充の時間を工夫して行ったりしたことで、自身の児童への支援や意識にどんな変化があったか。**

・自分達で適切な量や内容の家庭学習ができるように例を挙げながら支援できるようになってきたと思う。
・家庭学習計画への助言を考えることで、個別支援の仕方を考えることにつながった。
・学習に対して見通しをもって取り組ませることができるようになった。
・ＣＲＴに向け、教科に偏ることなく補充を行えるよう、各教科の対策の計画を立てて補充の時間を行ったことで、児童の学習状況や習熟度を知ることができた。
・補充の時間で、児童に必要な力を考えながら課題を出そうとした。
・高学年は中学校へ向けて「自分で計画を実践して見通しをする」という意識付けと練習になったと思う。上位の子は確実に計画的に学習する力が付いていると感じる。また、上手にできない子でも、今後も継続していくことで成長が見込まれる方法だと思う。
・「どうして自分で考えて学習する必要があるのか」といった理由を意識して子どもに指導することができた。

**（４）校内研修のテーマを基に、研修全体を通しての成果（〇）と課題（●）**

〇何を身に付けさせるか、そのためにどんな手立てが必要か、整理して考えられるようになった。
〇児童一人一人に寄り添った支援をするための目を養うことができ、生徒指導や学習指導の質の向上につながった。
〇様々な研修によって、学級経営で児童への対応に対して、共通のものさしができた。
〇児童に対していろいろな面から、それでいて基礎的なところを支援する手立てをたくさん知り、行うことができた。
〇本校の児童の実態に合っていて、必要感をもって研修に取り組むことができた。
〇職員間での実践内容の共有化、児童間の考えの共有化が図れ、どちらも能力・学力の向上につながった。

●今年度は指定研修の２年目であったが、今年度本校に赴任したため、校内研修の取組内容を十分に理解した上で実践することに時間を要した。
● hyper-QU などを児童の支援に生かすために、教師間で振り返りができる研修を設定していけるとよい。

## 5　その他資料

〇児童向けアンケート（Ｒ２年度末実施）
〇 hyper-QU 結果の比較

# 個に応じた指導班（Ｒ２年度）

**前年度の課題**

- **「焦点化」「視覚化」「共有化」の定義の理解を深めていく必要がある。**
- **「焦点化」「視覚化」「共有化」の手立てを講じることが目的にならないよう、児童の具体的な姿を思い浮かべながら手立てを工夫することが必要である。**
- **共有化をするために児童同士に考えを伝え合わさせているが、目的に応じて交流の形態や方法を適切に設定できるように研修を深める必要がある。**
- **「個に応じた指導班」については班とせずに全員が携わっていくと、日々の指導がより充実するとともに、共通理解が深められると考えられる。**
- **Ｅ小の「学びの流れ」を完成させ、共通理解を図り授業改善につなげられるようにする。また、実践を通して改善していく。**

## 授業における「焦点化」「視覚化」「共有化」

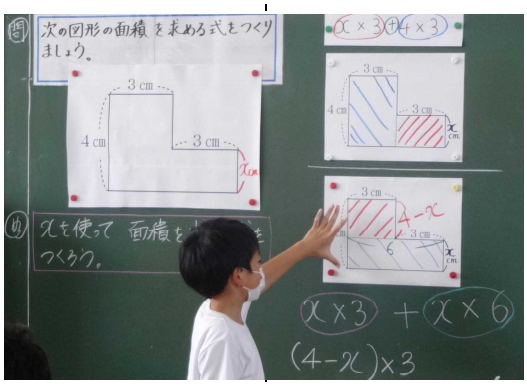
○授業実践を通して、「焦点化」「視覚化」「共有化」の手立てが本時のねらいを達成するために有効なものであるかどうかを検討し、共有した。
○今年度の授業実践での「焦点化」「視覚化」「共有化」の手立てをまとめた。
※詳細については、別紙資料参照
○他者の考えを知り、自分の考えを深めることができるような交流の場となるようにするために、校内統一の『意見カード』を作成し、学年・学級が変わっても使うことで、児童に考えを伝え合い深め合う力が身に付くようにした。

**今年度の成果（○）と今後の課題（●）**

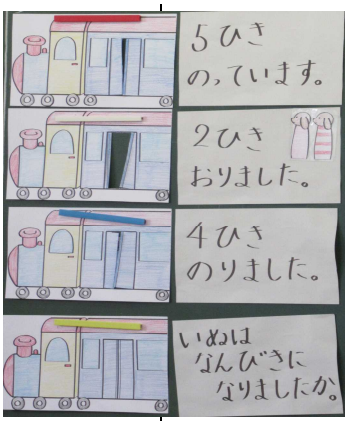
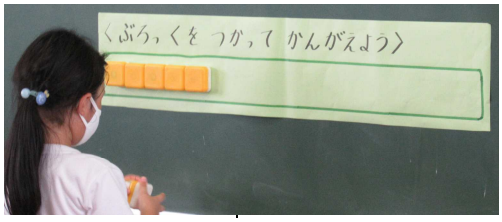
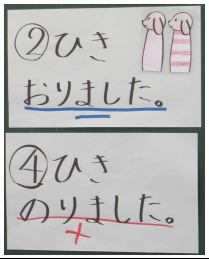
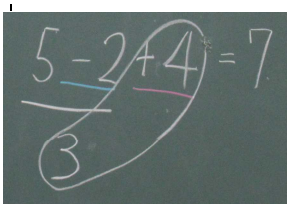
- **○本時で児童に身に付けさせたい資質・能力を明らかにすることが、本時のめあてを児童に明確に伝えることだけでなく、具体的な手立てを考えることにつながることが実感できた。**
- **○低位の児童の変容を思い浮かべながら手立てを考えることが、学級全体への効果的な手立てとなることが実感できた。**
- **○１単位時間の中で、たくさんの手立てを講じればよいわけではなく、本時のめあてとなる資質・能力を身に付けさせるためにはどのような手立てが効果的であるかを絞って考えるようになった。**
- **○児童がお互いの考えを共有し深め合う「交流」の場が工夫され、充実するようになった。**
- **○職員全員が「個に応じた指導班」に属したことで、どのような手立てが行えるか、そのような手立てを行うと児童のどのような学びの姿が見られるか、など課題意識をもってお互いの授業を参観することにつながった。**
- **●「焦点化」「視覚化」「共有化」の手立てが効果的であることを継承していけるとよい。**
- **●「交流」の場が工夫されたことで、児童の主体的・対話的な学びの姿勢も育ってきたと感じる。今後も「交流」の場を計画的・継続的に設けることで、この姿勢を伸ばしていけるようにする。**

# Ｒ２年度　授業実践の中での「焦点化」「視覚化」「共有化」

【実践１：算数】
単元名：文字を使った式
本時のねらい：式と図を対応させて考えることを通して、考え方を文字を用いた式に表したり、文字を用いた式の意味を読み取ったりできる。

| 場面 | 手立て | | | 効果 |
|---|---|---|---|---|
| 課題の追究<br>交流 | 共有化 | ・図に示された考え方から式をつくる力や、式で表された考え方を読み取る力を伸ばすために | 式と図を対応させながら、児童が考えたものを他の児童が説明する活動を行う。 | ・多様な考え方を知るとともに、友達から出された考え方について「どのような考え方なのか」を考えることが、式と図を対応させる力の向上につながる。<br>・特定の児童だけでなく、全員参加の意識が高まる。 |
| | 共有化 | ・全体で学びを深めていけるように | 指導者が児童の言葉をつないだり問い返したりする。 | ・同じ問いかけでも大切なところを繰り返して問いたり、児童の発言に対して問い返したりすることが、対話的な学びとなり、理解の深まりにつながる。<br>・誤答をあえて取り上げて全体で解決に向かって思考を繰り返すことで、児童の深い学びにつながる。 |
| | 焦点化 | ・式と図がたくさん並ぶことで理解が困難にならないようにするために | 複数の考え方があるが、一つ一つ取り上げて児童の理解を促す。 | ・低位の児童にとって、多くの情報を一度に与えられることは、混乱を生じ理解を妨げるため、一つ一つの考え方を焦点化して順番に確認することが大切である。 |
| | 視覚化 | ・式と図のどの部分が対応しているのかをつかめるように | 式と図の対応している部分に同じ色を付けながら考え方を共有する。<br>  | ・式と図を対応させることは、低位の児童にとって容易なことではないが、色分けをすることで、視覚的に理解を助けることとなる。 |

【実践２：算数】
単元名：３つのかずのけいさん
本時のねらい：続いて起こる事柄を式に表すことを通して、３口の数の加減混合の式の表し方を理解し、答えを求めることができる。

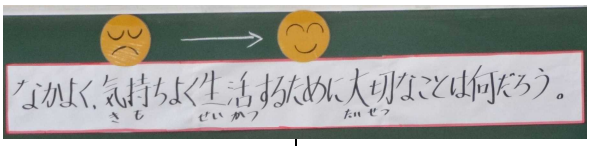
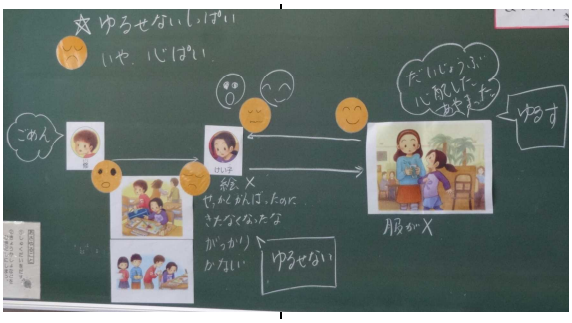
| 場面 | 手立て | | | 効果 |
|---|---|---|---|---|
| 課題把握 | 焦点化・視覚化 | ・本時の課題を的確に捉え、めあてを意識して学習に取り組めるようにするために | 学習課題を絵を動かしながら児童とともに確認する。<br>  <br> | ・本時の課題をイラストを動かしながら確認することで、児童が、本時は３口の計算の学習をするという見通しをもつことができ、立式することにつながる。 |
| 課題の追究<br>交流 | 共有化 | ・正しい式を立てられるようにするために | ブロックを操作しながら問題と式の対応を確認する。<br>  <br> | ・個別でブロック操作をした後、代表児童にブロック操作をさせることで、学級全体での確認になる。<br>・誤答をあえて取り上げ、ブロックを使って確認することで、立式の力がより高まる。 |
| 課題の追究<br>交流 | 視覚化 | ・問題文と式がどのように対応しているか分かるようにするために<br>  <br> | 問題文と式にたし算とひき算を色別で線を引く。<br>  <br> | ・問題文と式のつながりを色別で示すことは、理解を促すための視覚的な手立てとして有効である。 |

【実践３：道徳】

資料名：わたしだって

本時のねらい：けい子とお姉さんの違いを考えることを通して、他人に対して寛容になろうという心情を育てる。

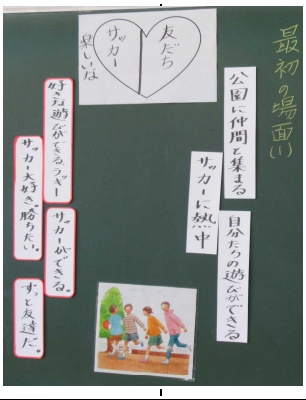
| 場面 | 手立て | | | 効果 |
|---|---|---|---|---|
| 導入 | 焦点化 | ・本時に考えることへの見通しをもてるようにするために | 本時の道徳的価値に関わる問いかけをしたり、本時のめあてを設定したりする。 | ・生活の中での経験を想起させる発問をすることにより、本時の学習への課題意識をもたせることにつながり、 |

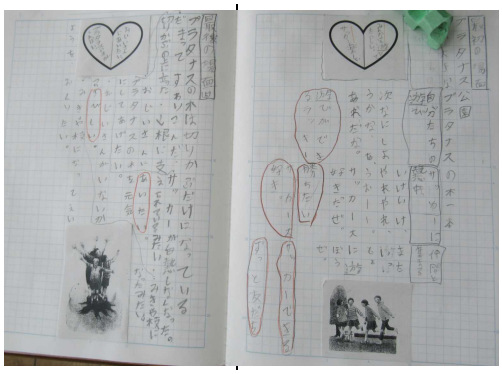
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | |  | | 児童の課題意識を基に学習のめあてを設定することができる。 |
| 展開 | 視覚化・共有化 | ・二人の登場人物のお互いの気持ちを理解しやすくするために | 気持ちを表情マークで表すように促したり、表情マークを黒板に貼って共有したりする。<br>  | ・考えはあるが言葉で表すことが苦手な児童も表情マークならば描くことができ共有できる。<br>・一人の児童が描いた表情マークについて他の児童に心情を説明させたり授業者が問い返しを行ったりすると、対話的な活動となり、考えを深めることにつながる。<br>・場面絵を用いた構造的な板書は、登場人物の心情の変化を捉えるのに有効である。 |

【実践４：国語】

単元名：プラタナスの木

本時のねらい：最初と最後の場面の登場人物の行動を対比することを通して、登場人物の気持ちについて読み取り、物語の最初と最後で登場人物の気持ちがどのように変化したのかを考えることができる。

| 場面 | 手立て | | | 効果 |
|---|---|---|---|---|
| 課題の追究 | 焦点化 | ・変化した部分に着目して読み取れるようにするために | 最初の場面の登場人物の行動や様子を想起させ、読み取る視点を与える。<br>  | ・場面を読み取る視点を与えることで、児童が自ら進んで本文に線を引くなどの主体的な姿が見られる。<br>・本時は最初の場面と最後の場面の対比であり、最初の場面の学習を導入でしっかりと振り返ることで、児童は本時の場面を読み取る視点を明確につかむことができる。 |
| 課題の追究<br>交流 | 視覚化 | ・主人公の気持ちの変化について考えられるようにするために | 最初と最後の場面の登場人物の行動や様子を対比して板書する。 | ・最初と最後の場面を対比して板書を構成し、児童もノートを見開き１ページ使用 |

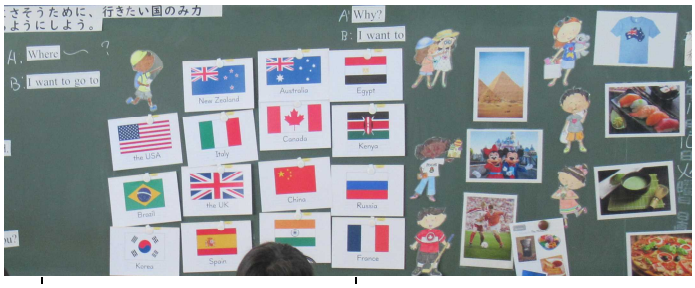
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | <br>  <br>板書と同様の児童のノート | | して板書と同様のノート作りをすることは、視覚的に対比を捉えて理解できるとともに、授業後も振り返りがしやすい。 |
| 課題の追究<br>交流 | 共有化 | ・様々な叙述をもとに登場人物の気持ちを考えることができるようにするために | 「意見カード」を使って、自他の意見の共通点や違いを意識して聞いたり表現したりしながら、一斉で意見を交流する。<br> | ・意見カードを活用することで、自分と友達の考えの相違を捉えることができる。また、授業者の意図的指名や児童同士の指名を行うことができ、対話的な学びが生まれ、児童の考えも深まる。 |

【実践５：英語】

単元名：I want to go to France.

本時のねらい：友達に行きたい国とその理由を伝える活動を通して、相手を意識したコミュニケーションを行い、目的に応じて必要な情報を話すことができるようにする。

| 場面 | 手立て | | | 効果 |
|---|---|---|---|---|
| 課題の追究 | 視覚化 | ・友達と行きたい国やその理由を伝え合えるようにするために | 話す順序が分かるよう「Where」、「I want to」と国旗カード、「Why?」、「I want to」と動作と理由カードを黒板に整理して貼る。 | ・イラストカードが掲示されていることによって、児童が話す言葉を想起するヒントになったり、児童同士でアドバイスする際のツールになったりする。 |

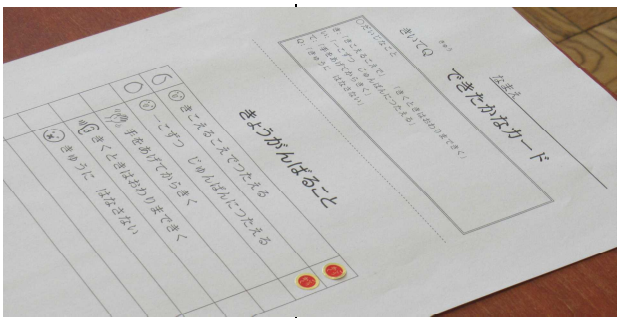
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| |  | | | |
| 課題の追究 | 共有化 | ・相手を意識したやりとりができるようにするために | アクティビティの途中で一時中断し、上手にできているペアに全体の前で実演させ、どこがよかったのかを確認する。<br> | ・代表児童に実演をさせることで、上手なやりとりを見て学び、それぞれのペアの上達につながる。<br>・代表児童の実演を見て、よかったところを他の児童に発表させ共有することで、会話のポイントをさらにつかむことができる。 |

【実践６：自立活動】

題材名：聞いてＱ ～よく聞いて質問しよう～

本時の目標：・手元に話型を置くことで、給食の献立を順序立てて分かりやすく伝えることができるようにする。
・聞き手になった際、ポイントカードを示し、確認することで、「手を挙げて」名前を呼ばれてから質問することができるようにする。
・「分かりましたか。」、「いいですか。」と確認し合うことで、質問する時間を確保できるようにする。

| 場面 | 手立て | | | 効果 |
|---|---|---|---|---|
| 課題の追究 | 焦点化・視覚化 | ・伝えるとき、聞くとき、どのようなことに気を付ければよいかを思い出すことができるようにするために | 「大切なポイントは何だったかな。」と発問しながら、黒板にポイントカードを明示する。 | ・ポイントを掲示しておくことで、ゲームの途中でも確認することができ、安心してゲームに取り組むことができる。<br>・ゲームをただ楽しむのではなく、めあてをもって取り組むことが、本時の目標達成につながる。 |
| | | ・常に自分のめあてを意識して取り組むことができるようにするために | 個別に個人のめあてを黒板に明示しておく。 | |

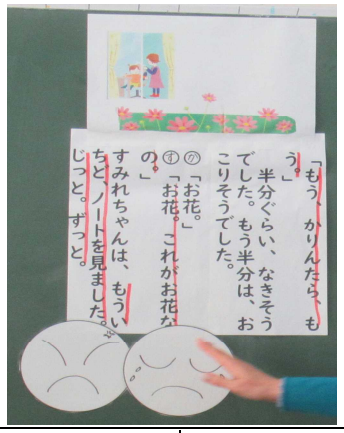
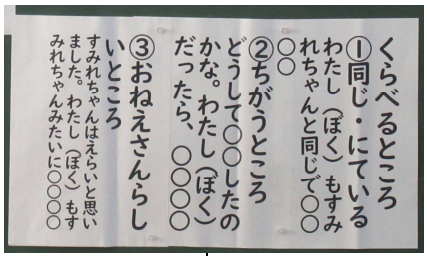
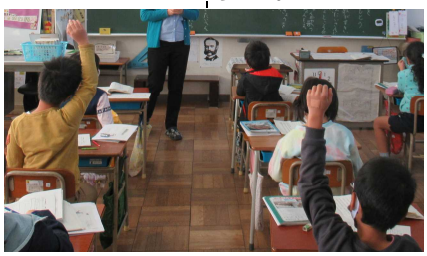
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | <br> | | |
| 課題の追究 | 焦点化 | ・個人のめあて（「今日がんばること」）を明確にもつことができるようにするために<br>  | 「できたかなカード」（自己評価カード）に丸印を付ける。迷っている場合は、前時のカードの記録や黒板のポイントカードに目を向けさせる。 | ・単元構想が練られ、本時のめあてが明確に示されていることで、児童が単元の見通しと目標をもって学習に取り組める。また、授業者も単元全体での児童の成長をみてとりやすい。 |

【実践７：国語】

単元名：わたしはおねえさん

本時のねらい：すみれちゃんの言動を自分の体験を比べたり重ねたりしながら読む活動を通して、すみれちゃんの気持ちを想像し、物語への感想をもつことができる。

| 場面 | 手立て | | | 効果 |
|---|---|---|---|---|
| 課題の追究 | 視覚化 | ・登場人物の気持ちを具体的に想像しながら読むことができるように | その根拠について話し合いながら、場面ごとにすみれちゃんの気持ちを表情マークで提示する。 | ・表情マークを使うと登場人物の思いを想像しやすくなり、根拠となる叙述と結び付けることにつながる。 |

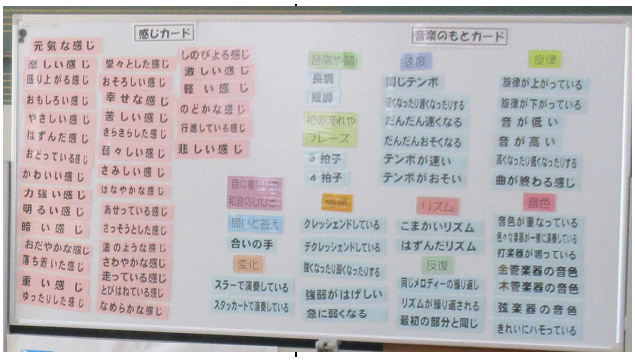
| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | |  <br>「もう、かりんたら、もう。」<br>半分ぐらい、なきそうでした。もう半分は、おこりそうでした。<br>㋐「お花。」<br>㋑「お花。これがお花なの。」<br>すみれちゃんは、もういちど、ノートを見ました。じっと。ずっと。 | | |
| 課題の追究 | 焦点化 | ・自分と比べながら読むことができるように | 具体的な視点（「自分と同じところ。似ているところ」「ちがうところ」「お姉さんらしいと思うところ」）を提示する。<br>  <br>くらべるところ<br>①同じ・にている<br>わたし（ぼく）もすみれちゃんと同じで〇〇〇〇<br>②ちがうところ<br>どうして〇〇したのかな。わたし（ぼく）だったら、〇〇〇〇<br>③おねえさんらしいところ<br>すみれちゃんはえらいと思いました。わたし（ぼく）もすみれちゃんみたいに〇〇〇 | ・比べる視点を与えることは、文学的教材を読むために必要なことであり、次第に与えなくても読めるようになるための手立てとして低学年では有効である。<br>・比べる視点を与えモデル文を示すことで、どの児童も自分と比べながら書くことができる。 |
| 課題の追究<br>交流 | 共有化 | ・感想を具体的にもつことが苦手な児童が多様な考えに気付き、自分の考えを深められるようにするために | 感想を発表する場面で、友達の感想についてハンドサインで自分の考えを示すように促し、児童の考えをつなぎながら交流する。<br>  | ・ハンドサインを示すことで、児童がお互いの考えを知ることができるとともに、授業者も意図的指名をすることができ、考えの共有と深まりにつながる。 |

【実践８：音楽】

題材名：せんりつの重なりを感じ取ろう

本時のねらい：旋律の特徴や反復、重なりを聴き取り、曲の構成と曲想との関わりに気付くことができる。

| 場面 | 手立て | | | 効果 |
|---|---|---|---|---|
| 課題の追究 | 視覚化 | ・曲の構成を視覚的に捉えることができるよう | ２つのグループに分けて、お互いを見られるように向かい合う隊形にし、それぞれの旋律が出てきたところで起立させる。<br>旋律の現れ方や「繰り返し・音の重なり」などの | ・自分と相手の動作の違いで視覚的に旋律の重なりを感じ取ることができる。また、旋律を図形化することも視覚的な支援となる。<br>・キーワードを意識しながら聴くことが、児童の「あれ？」「なぜ？」の戸惑いを生み、 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | キーワードを板書する。<br> | 本時の課題の把握につながる。 |
| 課題の追究 | 焦点化 | ・曲想に関係する音楽を形作る要素を聴き取ることができるように<br>  | キーワードを形作る要素を「音色・速さ・強弱」に絞り、聴く視点とする。 | ・聴く視点を与え、感じたことを表現するために必要な語句をカードにして提示しておくことで、言葉での表現が苦手な児童も言葉を選んで書くことができる。<br>・鑑賞して感じたことや考えたことを共有し合う上でも、視点が絞れていると話合いの方向性が定まる。 |
| 課題の追究<br>共有 | 共有化 | ・音楽を形作る様々な要素が曲想に関係していることに気付くことができるように<br> | ４人程度のグループで、旋律が重なり合った場面で聴き取った音楽を形作る要素や、曲想との関わりについての意見を交流する。 | ・児童によって色別の付箋を使って意見を交流することで、誰がどの意見かが分かりやすく、児童が自分の考えと友達の考えを比べながら交流しやすい。 |

# 学習の基盤班（Ｒ２年度）

**前年度の課題**
・学習規律の定着化を図るには、毎日の点検や声かけなど繰り返しの大切さが必要である。
・児童が学習準備をする際に、楽しみながら点検チェックできるようなキーワードを取り入れた工夫を考える必要がある。

## 認知機能強化

〇学習規律の定着化を図れるように、児童の実態を考慮して、基礎学力の土台作りをするために、「聞く力」「見る力」に特化した認知機能強化トレーニングとして「コグトレ」を実践した。

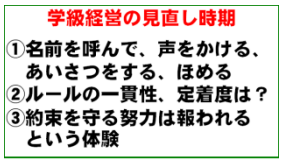
【活用した書籍】

〇学級担任が児童の実態に応じて活用できるように、最初の数回分を紹介して共通の実践をした後は、職員室の一角に職員用書籍コーナーを設置し、常時、印刷して使えるようにした。

## キーワードの掲示

〇学習規律の定着化のために、教師側からのアプローチをするときのキーワードとして、「できている姿は　がんばっている姿」を年間を通して掲げた。

〇児童を理解し、個々の困り感や困難さに寄り添った様々な支援ができるように、職員が心がけたいキーワードを月ごとに職員室に掲示した。



【職員室の掲示例】

## 学級経営

〇学級集団の特性を知り、課題解決に向けた手立てを考えよりよい学級経営ができるように、今年度はhyper-QUの結果分析をもとに、支援が必要な児童への具体的な手立てを考える視点についても職員研修を行い、経営方針を見直した。

〇 hyper-QUの結果を活用し、どの教師も児童を理解し、個々の困り感や困難さに寄り添った様々な支援ができるように、書籍を参考に、指導行動の癖など教師側が自己分析をして、自分に合った指導法を見つける職員研修を行った。

【教師の指導スタイル】

〇児童が落ち着いて学習活動に取り組めるように、それぞれの「hyper-QUの結果分析と児童への手立て」については、全職員で情報を共有し、教科担任制を行っている高学年の学習指導の際にも活用するようにした。

〇困り感を抱える児童に対して考えた手立てを見直し、よりよい支援ができるように、hyper-QUを年２回実施した。

**今年度の成果（〇）と今後の課題（●）**
〇 hyper-QUという共通のものさしをもって、学級を客観的に見ることで、声を挙げにくい児童一人一人にも目を向けることができた。また、配慮の必要な児童には、事前にアプローチするなど有効な支援ができた。
〇「コグトレ」の活用で、児童が楽しみながら「みる・きく」のトレーニングをしたことで、授業の学習課題のポイントを捉えられる児童が少しずつ増えた。
〇キーワードの掲示物を見ることで、常時活動の中で適切な支援をしたり、その支援の適切さについてふり返りをしたりしながら指導することができた。
● hyper-QUの結果分析をもとに考えた手立てを実践するためにも、児童一人一人の困り感に寄り添える姿勢や心の余裕が教師側にも必要である。全職員が同じ視点で、児童の指導にあたれるとよい。「コグトレ」を有効に活用するためにも、定期的に、かつ、継続的に行っていく必要がある。

# 学習の定着班（Ｒ２年度）

**前年度の課題**
・家庭学習集中期間を設けることで、自主学習のやり方が分かったり必要性を感じられたりしているが、自分に合った量や必要な内容を決めることに難しさを感じている児童がいる。
・宿題・自学への取り組みが難しい児童への支援が必要である。
・学年に応じた効果的な補充の時間も持ち方の検討が必要である。

## 個に合わせたスモールステップの設定と支援

〇前年度から継続して「家庭学習集中期間」を設けた。その際、教師が児童一人一人に合わせて次の一歩（スモールステップ）を把握して示すことで、自立レベルの低位・中位・高位それぞれにあった支援を行えるようにするため、個別支援表を活用し、児童の実態に合わせた手立てと目指す児童像を明確にした。

### 家庭との連携

〇家庭学習集中期間の際には、学級通信等で周知すると共に、家庭学習をする意義を伝えたり家庭学習集中期間カードの確認について依頼したりした。
〇家庭学習で宿題に取り組むことが難しい児童や自力で自主学習に取り組むことが難しい児童に対し、家庭へ個別連絡を行い、協力を依頼した。

### 交流

〇自主学習ノートを紹介し、児童同士で交流する場面を設けた。その際、自分の工夫を伝えたり、友だちの良い工夫を見つけたりする活動を加えた。
〇家庭学習コーナーを昨年度から継続して活用した。代表のノートのよさを書くコメント欄には、教師だけでなく選んだ児童、選ばれた児童のコメントを記入した。

### 目標設定

〇家庭学習集中期間後に小テスト等課題を設定した。それをもとに児童が目標を設定し、家庭学習集中期間の計画を立てられるようにした。
〇自立レベルの低位の児童については、課題に対する点数や取り組む量の目標だけでなく「宿題を忘れず出そう」「いつもよりていねいに取り組もう」という態度を改善できるような目標設定を行った。

## 補充の時間の充実

〇１～３年　月・水・金曜日　帰りの会後１５分
〇４～６年　月・水・金曜日　帰りの会後１５分　木曜日　帰りの会前１５分
　児童の実態に合わせた自作プリント、初見の文の読み取り、学習内容の定着に向けて個別の支援が必要な児童への指導等を行った。
　高学年については、教科担当制の実施に伴い教科が偏ることなく実施できるよう、補充の時間の予定表を活用した。

**今年度の成果（〇）と今後の課題（●）**
〇児童一人一人の実態に合わせて、家庭学習について提案・助言・支援を行い、自主学習をやる児童がより増えたり、自主学習でどんなことをやるか自分で考えられたりする児童が増えた。また、自立レベルの低位・中位・高位のそれぞれの児童について特に効果的であった支援は以下である。
・自立レベルの低位の児童に対しては、自主学習の内容や小テスト等課題での点数ではなく、宿題を提出することやていねいに取り組むことといった態度面を意識した目標を持たせることにより、少しずつ意欲や取組に向上が見られるようになった。また、家庭の協力を依頼することで自主学習に取り組むことができた。
・自立レベルの中位の児童に対しては、児童同士の交流によってよい取組例や具体例を共有したことが、家庭学習の内容の充実や自主的、自力での取組の向上につながった。
・自立レベルの高位の児童に対しては、目標を設定して家庭学習に取り組ませたことにより、自分の立てた計画や小テスト等課題での目標点数を達成しようとしたり、そのために計画を調整したりすることにつながった。また、達成感を感じたり次回への意欲をもったりすることにも効果的であった。
●目標の達成や意識の把握、課題の返却については、全教科を担任がするとなると時間の確保が難しく、そうでない場合は児童の実態把握が難しい。
●家庭の協力を得ることが難しい児童の家庭学習の支援に課題がある。

※〈学習の定着班　資料〉参照
「個別支援表」「自主学習ノート・家庭学習集中期間から見られる児童の変容と実際に行った支援」
「家庭学習の手引き（テスト勉強編）」

# 家庭学習の手引き【テスト勉強編】

テスト前には「テスト勉強」ができるようになるといいね！

「テスト勉強」って
どんなことをしたらいいのかな？

「テスト勉強」で
ノートをどんなふうに使ったらいいかな？

## 【国語】

◦漢字練習
・音読み、訓読み・書き順を確認する。
・その漢字を使った熟語を調べる。
・その漢字を使って文を作る。

◦意味調べ
・教科書の本文や漢字スキルの熟語の中の意味のわからない語句を国語辞典で調べる。
・その語句を文の中で使う。

◦「言葉のたから箱」（教科書にある）
・言葉を選んで意味を調べたり、短い文を作ったりする。

◦物語文
・「あらすじ」をまとめたり、「誰」が「何」をしたか、登場人物の心情の変化を書き出したりする。

◦説明文
・筆者の考えを確認し、要点をまとめる。
・文の構成を確認する。

◦言葉の使い方
・教科書の問題をもう度とく。

◎共通
・音読　・授業のノートを見直す。

## 【社会】

（左ページ）　（右ページ）

〔教科書の大きな単元の課題を書く〕

1. 太字の「ことば」についてまとめる。（キーワード）
2. キーワードに関係する図やグラフ、地図などをかく。
3. 図やグラフ、地図が説明していることをなるべく短くまとめる。
4. 3のまとめの一部をクイズ形式で当てるようにしてもよい。
5. キーワードをつなげたり、広げたり考えていることを学習感想としてまとめる。

※色分けしても
・文は黒・青・赤の3色
・図は緑やオレンジを加えて5色まで

まず①教科書を読む。（学習課題を解決するには？）
②写真や図、グラフ、ことばの解説も読む。
③「いつ」「どこで」「何を」「どのように」「どうした」でまとめる。
④「つながり」「広がり」「ちがい」「くふう」など自分の考えを書く。

次に、ノート見開き2ページでまとめるとよい。

ポイント
(1)「時間に着目」
・いつごろ始まった
・どのように変化した
(2)「位置や広がりに着目」
・どのような場所にある。
・どのように広がっている。
(3)「かかわりに着目」
・どのようなつながりがある？
・どのようなくふうがある？
・どのように協力しているの？
(4)「比べる、分類する、総合する、関連づける」→これが学習感想
・ちがいがあるか比べて
・いくつかの種類に分類してみて
・学習したことを総合したり、関連づけたりしてみて

## 【算数】

（左ページ）　（右ページ）

☆
☆
ポイント
◎
ポイント
☆

① ②
③ （式）
（答）
感

（右ページ）
問題をやってみよう。
◦教科書の問題（▭▶）
◦授業でやった問題
◦計算ドリル
◦ばらプリント
※必ず丸付けをしよう。
※まちがえたら、正しい答えをただ写すのではなく、やり直そう。

（左ページ）◦授業中の（ま）や、教科書の「★発見！」をまとめ直す。
◦考え方を図や数直線、式、言葉で書くのもGood！
◦ポイントを書きこむのもGood！
◦自分でお気に入りマークを決めて使い分けるのもGood!!

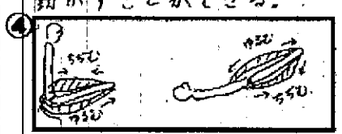
感「復習をして、新たに気付いたこと」、「さらにわかるようになったこと」などを書こう。

## 【理科】

①
めあて　からだが動くしくみをまとめる。

②言葉
きん肉
　体をさわったときの、やわらかい部分にある。力を入れるとかたくなる
ほね
　体をさわったときの、いつも・・・・・
関接
　・・・・・

③まとめ
・体は、関接があるところで曲げることができる。
・きん肉をちぢめたり、ゆるめたりすることで、体を曲げたりして、動かすことができる。

④



⑤ふりかえり

めあて　ほねのやくわりをまとめる。
ほねのやくわり
①からだをささえる。
②からだを守る。
（例）頭のほね…のうを守る。
　　むねのほね・・・・・

⑥調べてみた！
◇もしほねがなかったら
　もしも、骨がなかったら、生き物は・・・・・
◇ほかの動物のほね

⑥教科書にのっていなくても、ふしぎに思ったことを調べてみるのもよし！
「もし～だったら」「ほかの～はどうかな」と考えてみるといいかも。

①めあてを書く。
何についてべんきょうするのか、いしきしよう。

②新しい言葉をまとめる。
授業で出てきた新しい言葉の意味を書いて、説明してみよう。

③学習の要点をまとめる。
学習したことの大事なところを「まとめ」として書いてみよう。

④図やグラフなどでも表してみる。
言葉で説明したことを、図にしたり、グラフを書いたりしてみよう。

⑤ふり返り感想を書く。
まとめてみて、大事だと思ったことや、勘違いしていたことなど、ふりかえってみよう。